

## 農事組合法人ハーネス河合（福井県）の視察研修レポート

視 察 日	平成28年7月12日（火）
視 察 内 容	大区画圃場での大型機械を用いた乾田直播の導入による生産費のコスト削減など
研 修 先 名	農事組合法人ハーネス河合
参 加 者	常任理事6名、関係市町3名、土地改良区職員3名

平成28年7月12日（火）午後1時より福井県福井市にある農事組合法人ハーネス河合へ常任理事、関係市町担当者、土地改良区職員12名で視察研修を行いました。

農事組合法人ハーネス河合は、福井県福井市の中心部から約10kmの北部に位置し、地区の南方と西方が九頭竜川に面する、田園風景の広がる平坦地で、経営規模は、農地面積153ha（うち転作50ha）を、専従5名・オペレーター15名、参加農家148戸のうち約70戸が年間1回以上出役され経営されています。平成23年1月に営農生産組合から農事組合法人となり、大区画圃場のスケールメリットを生かした大型機械による3集落1農場方式の経営を行っておられ、「1俵1万円でも儲かる米づくり」を実践するため、約60haを水稻直播栽培とされ、生産費の削減に努められています。

### 【加藤総務管理部長の概要説明】

#### ① 地下かんがい方式の採用

用排水路を極力少なくし、草刈等に係る維持管理労力の軽減を図っている。

#### ② 県営圃場整備事業による大区画圃場の整備

1区画2haから5haの大区画圃場へ整備し大型機械の性能を活かした農作業の効率化を図っている。

#### ③ 乾田直播栽培による生産費の低コスト化と収益の配当

大型機械による乾田直播は、移植と比べ10a当りの労働時間が約1/3に短縮され、水稻生産費の比較でも約1/2となりコスト低減が図られている。

また、収益から支出を差し引いた利益は、面積に応じて従事分量配当として組合員へ分配されている。（平成27年度は10a当り約20,000円）



当土地改良区の受益地内の大区画圃場は60aが最大であり、ハーネス河合のスケールの大きさに役員全員が驚かされました。当土地改良区内にある農事法人を含む集落営農組織と比較すると、区画規模や用排水施設の構造は異なりますが、当地区内においても今後集積化が進み、大型機械の導入や直播による水稻生産費のコスト削減が図られることを期待しています。

最後に、ハーネス河合の加藤総務管理部長様には約2時間にわたり親切丁寧な説明をして頂き、当土地改良区役員としましても非常に実の多い研修ができたと考えています。

